

本連載記事の企画趣旨は、「土木技術者の活躍する場として国際事業がある。若き技術者や学生に海外の面白さを伝え、興味を惹いてもらう記事を提供する」ということである。どこまで要望を満足させられるかわからないが、私の経験談に6回付き合っていたきたい。



正会員  
京都大学大学院工学研究科  
都市社会工学科 助教授  
**木村 亮**  
KIMURA Makoto

## アフリカの水を飲んだもの

初めての海外は1979年、自転車で単身カナダを横断した。それ以後、オーストラリア、メキシコ、ニュージーランドと単独自転車旅行を続け、大学院2年の冬にサハラ砂漠を縦断しヨーロッパを走行した。修士論文公聴会の開催時には、アルジェリア南部の道を汗と砂にまみれて走行しており、1年留年。「1年遅れると、君、退職金が減るよ。3月でも気が変われば、就職を世話してあげる」と、就職担当の先生に言われたことを、今でも鮮明に覚えている。

「中途半端な海外好きは、会社に迷惑がかかる」と思われたか、学校に残り助手になる。時効なので告白するが、助手時代に2回自転車持参で国際会議に出席し、インドネシアとオーストラリアを走った。学校にも迷惑がかかる。

1993年に「JICA（その当時国際協力事業団）がケニアでつくっている大学に行って講義をし、地盤工学の研究者を育てよ」と言われ、3ヶ月弱滞在した。「アフリカの水を飲んだものはアフリカに戻る」という諺はあるものの、アフリカ大陸がよほど気に入っているのか、都合23回も行ってしまった。この原稿も、紫のジャカランダの花が咲き乱れるケニア・ナイロビのホテルで書いている。真面目に数えると91回目の海外。パスポートの出国と帰国のスタンプが混在するので、税関カウンタ



10～12月に花が咲く  
ジャカランダ



ケニア唯一の熱帯雨林（カカメガ・フォレスト）

ーで毎度「〇〇ページに捺してください」と話しかけている。堅苦しく難しい顔の税関職員の方々も、こちらが話しかけると必ず顔が緩む。一度お試しを。

## オレンジかバナナか？

まずは過去の話でなく、最新の話題から攻めたい。2005年11月21日に私は、ナイロビのジョモケニアッタ国際空港（アフリカなどのよくある大統領の名前を取った空港）に早朝降り立った。JICA職員の方から事前に、「21日に憲法改正の国民投票があり暴動発生の可能性がある。出張はお勧めできず空港にも近づけない」とのメール。入国出口で白タクの運ちゃんに多数勧誘を受けるものの、空港も街中も静寂そのもの。当日は祝日になっていたためナイロビ名物「何もないのに大渋滞」もなく、肩透かしを食らった気分であった。

貧困に喘ぐ住民や何かと騒ぎたがる学生が、



立派に舗装された自転車専用道路

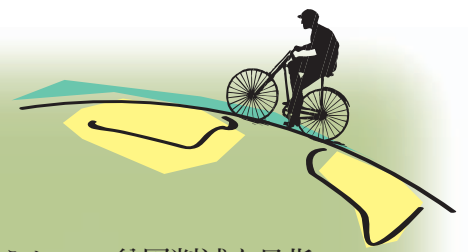
このときとばかりに日頃のうっぶん晴らしに暴徒化することがよくある。学生街にあるナイロビの交差点は、信号機が鉄籠の中に入っている。学生の投石による破損を避けるためである。大統領の権限が非常に強くなるので改正は認められないというのが反対派の言い分である。大統領出身部族のケニア主要部族のキクユ族に反感をもっている少数部族は、当然反対することになる。

地方に行けば憲法の意味さえわからない人がいるので、国民の関心が低下する。そこで、賛成はバナナ、反対はオレンジに投票時印をつける方式とし、新聞もバナナの集会在どこそこであるなどと書く。オレンジ対バナナの戦い。結果はオレンジが6割を占め勝利した。

私の興味はなぜオレンジとバナナで、誰が決めたのかということであった。ケニア人の友人に聞くと、選挙管理委員会が決めたとのこと。ケニアにはおいしいマンゴも市場に出回るが、出荷時期でなく選考に漏れたとか。集会には皆それぞれのシンボル果物を持参し、対抗派にはポケットに忍ばせた果物を投げつける。なんとも微笑ましく、それではオレンジとバナナ農家が儲かったと聞くと、まさに当た



土とわらの田舎の家々



りで、かなり高騰したらしい。貧困削減を目指して現在私は活動しているが、憲法改正は農業国ケニアでは変化球の農家救済になったわけである。

## ボダボダ専用道路

今回はビクトリア湖の北のカカメガという西部の町に行ったが、驚くことが2つあった。1つは自転車専用道路の出現である。平坦な地形であるビクトリア湖周辺では、ここ数年で急速に自転車の利用が進んだ。後ろに専用荷台を付けた自転車タクシーが大流行である。中国製で1台5,000円程度。客引き競争で大変だが、荷物の運搬にも大いに役立っている。ウガンダとの国境が自転車輸送の発祥地で、国境間（ボーダー・ボーダー）の意味がなまり『ボダボダ』と呼ばれる。スワヒリ語では『バイスクリ』で、味も素っ気もない。交通事故を避けるため、世界銀行の援助で舗装した自転車専用道路が出現した。完全に車と分離され、歩行者との混在の日本より進んでいるのではないか。



試しに『ボダボダ』に乗る筆者

2つ目は、町の市場の売り物が夜はビニールをかけそのまま放置されていたことである。日本のお祭り時の夜店状態である。この町には泥棒がないのか。ナイロビでこの状態なら、一夜にしてすべてなくなる。夜8時以降はケニア人も怖がって歩かず、武装した強盗（マシンガンをもっている）が日常茶飯事なナイロビとは、大違いである。田舎はのどかだが、これほどのギャップがあるとは。 アフリカ奥深し。